

# 未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年)  
～ 地元報道より ～

## 12月の出来事

### 南三陸町

◇南三陸町の給食センターが高台の志津川中央区の小学校裏側に28年度に着工し、29年2学期から稼働供給する。

◇JA南三陸では復旧水田の新米試食会を開催した。

南三陸町河川の今季はサケ遡上の激減により、海サケからも採卵を始める。主要河川の八幡川・水尻川でのサケ数は1004匹で、採卵数は119万粒(11月29日現在)で、北上川などの移入卵を含めても361万粒で、目標の1200万粒の3割にとどまっている。志津川湾の「海産親魚」からの採卵を今後実施する。

◇南三陸町が実施している「介護職員初任者研修」で、外国人や高校生など18人が修了した。介護職員不足のなかで担い手職に町が実施した。通常は資格取得に8万～10万円かかるが、町は受講料を1万円に抑えて実施している。

◇南三陸町では入谷・名足の災害公営住宅の計4戸と、町営住宅第2北の沢住宅の空き室の入居者を募集する。

◇南三陸町教育委員会は仙台大学と共同で、震災による仮設生活による子供たちの体力低下が心配されている。今回は幼児を対象に測定し、調査で実態を把握し対策を講じる。同大学が幼児向け調査は県内で初めて。

◇南三陸町は震災後の人口減少や少子化対策として、現在の出生率の「1.07」から「1.20」の引き上げ目標達成のために、子育てクーポン券配布や移住定住への家賃補助など、対策を統合戦略で展開する。

◇南三陸町の町民バスは4月から有料化され、これまでの民間業者が運行を継続する。

◇南三陸町立入谷小学校(児童36人)が、大日本蚕糸会から「蚕糸絹文化学習教育奨励賞」を受賞した。児童が取り組んだ「養蚕学習」が高く評価された。

◇6日南三陸町入谷桜沢の国道398号沿いに、町内初のビジネスホテルが開業となった。お盆やお正月でも南三陸町に宿泊する所が少なく、格安なビジネスホテルの必要性が求められていた。短期宿泊料金が一泊6200円(シングル)、

長期宿泊には割引もある。

◇志津川高校(山内松吾校長)の情報ビジネス科の生徒達が、自分たちで創作した「南三陸思い出かるた」を志津川小学校に寄贈した。「皆楽しい歌津恋来い祭り」「えいがかん芸術薫る十日町」などの句がある。

◇10日チリ地震津波で被災した事で、南三陸町とゆかりのチリ政府代表団が防災で南三陸町を視察した。志津川高校の仮設入居者10人と意見交換し、被災し残ったモアイ像の頭部がある志津川高校のモアイ像の前で、記念写真を撮り教員とも交流を深めた。

◇南三陸町のマイナンバー送付状況を発表(12月12日現在)した。町への返送が6.4%(298通)に上がった。郵便局での保管が終了した物が76通で受け取り拒否が1通だった。返送分の窓口受け取りが139通あり、全体で3.4%に当たる100通がまだ届いていない。

南三陸病院が14日開業した。自衛隊の患者輸送車両6台と、近隣の救急車4台により、登米市米山の診療所から入院患者22人の搬送がおこなわれた。震災から4年9ヶ月の米山の仮の病院での診療を終えた。1月には透析も再開する。

併設された「総合ケアセンター」も同日業務を開始し、初の乳幼児健診がおこなわれた。外来診療は16日から始まる。

◇南三陸町入谷地区で、桃やツツジ植樹の「花見山プロジェクト」を立ち上げた。将来は南三陸の名所にと、住民がこれまで450本を植樹してきた。植樹場所には記念の看板が設置された。

◇「三陸道」の志津川(小森)の開通が、米谷からの11.1km間でのり面8カ所に亀裂が見つかり、28年度内を目指し対策工事をする事が、国交省仙台事務所より発表された。

南三陸病院の医師から看護師、薬剤師などスタッフの不足が深刻となっている。入院病床が米山診療所の38床から90床に大幅な増設となり、看護師・看護助手が58名で対応している。1月18日からは人工透析も始まり、厳しい運営状況となっている。慢性的な医師不足は、常勤医師4人に、東北大学よりの医師派遣が3人いないと診療できない、病院の新たな船出となっている。

◇志津川高校で佐藤仁町長のトークイベントがあり、生徒と意見を交換した。その席上で復興の力になってと、生徒に語りかけた。

◇南三陸町立戸倉小学校(山内順校長)で、児

童3・4年生28人が、復興工事の関係者に交通安全を願う「繭のお守り」を贈った。

◇南三陸町防災集団移転で11団地46区画の空き地が発生し再募集をする。

南三陸町の『復興祈念公園』の設計がまとも、30年4月の開業を目指す。防災対策庁舎を中心に6haを整備する。総工費は12億円の復興交付金を利用し、八幡川西側は「祈りの丘」とし、20mの築山も設ける。公園設計のコンセプトは「追悼」「継承」「感謝」「想像」「協働」で、来訪者が植樹や維持を通し、震災の教訓を語り継げる場とする。

◇東日本大震災の津波で職員43名が犠牲になった南三陸町の「防災対策庁舎」が、22日震災から20年間(43年まで)県に引き渡し「県有化」された。

新国立競技場の建設設計のコンペで、志津川市街地のランドデザインを設計した建築家の隈研吾氏の案が採用された。10月に国際認証を得た地元木材(南三陸杉)があり、東京五輪などの国連施設に優先的に関連施設やグッズにも利用される。志津川との緑の深い隈氏のデザインが決定した事で、南三陸杉使用に期待がふくらむ。

◇25日に「第3回沿線自治体首長会議」が開催され、国交省副大臣とJR東日本との会議の中で、大船渡線はBRTを了承し、気仙沼線も登米市と南三陸町はBRTで全線復旧を了承したが、気仙沼市はもう少し議論が必要と結論を持ち越した。

◇南三陸町の被災者主婦らの、手作りの来年のえと「申」の縫いぐるみが東京・関東の百貨店で人気を集めている。小物はファッションデザイナーの芦田多恵さん(東京都)の協力販売されている。

◇南三陸町は仮設住宅の集約について「特定延長」を検討している。町の仮設の供用期間は震災から6年の来年度まで一斉延長することを決定した。29年度からは仮設入居者へ個別対応していく。

◇南三陸町の志津川地区で被災した古澤孝夫さん(89)は、南方の仮設住宅から帰還した被災世帯は初めて。ベイサイドアリーナ向かいの志津川東区東工区の15世帯の場所への新築で、4年ぶりに古里でのお正月を迎える。

◇南三陸町の病院建設支援での相互交流の一環として、台湾からの初めての修学旅行を迎えた。来町したのは、台湾の国立台南第一高級中学校の生徒72人。宿泊は入谷地区を中心とした山里の民泊15軒を利用する。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

### 気仙沼市

◆気仙沼市の26年度の市債(借金)は約555億円で、市民1人当たり83万円となり一世帯213万円となった。一般会計1人に使われた額は約204万円で復旧復興に使われ、震災前の5倍となった。

◆ハローワーク気仙沼の発表によると、求人倍率が震災後最高の「2.06倍」となった。被災地の水産加工場の再開がその要因。

◆県漁協気仙沼・大谷市場のアワビの12月の事前入札で、10K当たり6万7550円～6万6100円と、11月より約8千円安くなった。

気仙沼市の財政の推計見通しは、財政町政基金を取り崩し収支不足になっている。27年度末で137億円は、31年度末には32億円まで減少する。このうち復興関係を除くと、本来の市の「貯金」となる通常分は58億円から1900万円まで減る見込み。

◆気仙沼市いじめ対策協議会が開催され、いじめ問題の防止と早期発見に、関係機関が連携し、確認した。10月末までに「軽度」も計上し67件を確認した。

◆気仙沼市は「三陸新報」と販売店が「高齢者見守り協定」を結んだ。包括支援の大きな戦略

として期待される。

◆気仙沼市議会はタブレット導入を検討している。「ペーパーレス」を目指し経費削減のメリットを探る。来年2月末をめざし検討する。

◆気仙沼大島の浦の浜・磯草地区の防潮堤の高さについて、当初より30cm引下げ、2段階で傾斜をつけ7.5mで建設、景観にも配慮した案に住民も大筋で合意した。

15日の気仙沼市議会で、熊谷雅裕議員の一般質問にあたり、議員が続々と退席し定足数を割り一時中断し、他の議員のボイコットにより質問を取り下げる前代未聞の事態が発生した。背景には飲酒運転疑惑と議員からの辞職勧告がある。議長を除く21人の議員の中で18人が退席した。熊谷氏は「任期中の職責を果す」と言っている。

◆気仙沼のサンマの水揚げは、大船渡に次ぎ全国3位となり、2年連続「本州1位」にはならなかった。

◆気仙沼中学校は、生徒が「撲滅宣言」をして、いじめゼロを誓った。

◆市職員の震災後の一部未払い金の3億9千万円を、議会の補正予算で支給を可決した。時効分は4億円にのぼる。

◆気仙沼市唐桑の観光地「巨釜」に缶などのポイ捨てが目立つようになった。当初は自動販売

機の脇に缶入れ箱を設置していたが、弁当や一般ゴミが入れたため撤去した。缶・ペットボトル入れ箱がないため、自販機の周辺にゴミが目立つようになった。観光協会ではゴミは持ち帰るよう貼り紙もしている。

◆気仙沼市の道の駅「大谷海岸」で「あわびまつり」があり、450kが1時間で完売した。19日の午前9時からの販売で、アワビは1k限定で8500円で販売された。

◆気仙沼市議会で、市内朝日町の造船団地土地取得を可決した。まずは、1.5ha3億6千万円を取得する。

◆気仙沼湾横断橋工事で18日クレーンが横転したが、ケガ人はいなかった。

気仙沼市への「ふるさと納税」が、今月22日まで昨年の件数の3倍(7269件)となり、金額では2倍の1億1336万円に上がった。インターネットによる納税申し込みは手軽とあって9割にのぼる。

◆気仙沼市の26年度に男性職員1人が「育児休業」を取得。

◆気仙沼市本吉に、パネル4千枚330世帯分の市内最大規模のメガソーラーが完成した。

◆気仙沼市立鹿折小学校の6年1組は、全国ダンスコンクールで準優勝に輝いた。児童が目標に向かい、心一つにして実力を出しきった。